

たてはく



温故知新

—原点を振り返り、新しき道を知る—

館長 高野 靖彦

令和8年が幕を開けました。今年の干支は「午」(うま)。「午」という漢字は、太陽が真南に位置する正午に用いられるように「頂点」「繁栄」の意味をもたらします。また、「午」は動物に当てはめると「馬」で、馬は人々を目的地に導く存在として「進展」のシンボルとされます。本年が皆様にとって、力強く前進する一年となりますようご祈念いたします。

令和7年を振り返ってみると、まんだら遊苑30周年記念イベントが盛況に開催されたことが思い出されます。まんだら遊苑は、建築家・六角鬼丈氏によって立山曼荼羅をもとに設計された、五感(光・音・色・香り・感触)を研ぎ澄まし、立山の自然や信仰、さらには芦嶺寺の文化を体感できる施設です。記念講演会・記念展示などを通し、設立当初のコンセプトを振り返り、そこからこれからの新たな活用法を考える機会となりました。

特別企画展では、前期には描かれた立山を、後期には英国人と立山との関わりを紹介しました。どちらもこれまでにない斬新な企画で、新たな風を感じることができました。

文化観光拠点計画は3年目を迎えており、現在、展示館

3階の常設展示リニューアルをはじめとして、展示パネル・WEBサイトの多言語化、立山曼荼羅の高精細デジタル化、動画コンテンツ制作など、館の魅力を向上させるべく、学芸課が取り組んでいるところです。展示リニューアルでは、タッチパネルの導入などを行い、体験型で分かりやすい展示を目指しております。今年の春には皆様にご観覧いただけるかと思います。新たな常設展示をどうぞご期待ください。

さて、本年、立山博物館は皆様のおかげで開館35周年を迎えます。当館は「教界」「聖界」「遊界」という3つのエリアで構成されています。それらを巡ることで立山の自然、歴史と文化を楽しめるよう設計されていますので、ぜひ各エリアを巡っていただければ幸いです。また、令和8年9月27日には、富山県を代表する「癒やし」の行事である「布橋灌頂会」の開催も予定しております。

当館の原点を振り返り、そこから新たな道を見出し、さらに前進する一年にしていきたいと考えております。本年も立山博物館をよろしくお願ひいたします。



展示館2階



展望館から眺める立山



まんだら遊苑・地界

目 次

温故知新 一原点を振り返り、新しき道を知る—	1
令和7年度後期特別企画展「英国から立山へ～『日本旅行案内』にみる立山～」を終えて	2
坂本監督最新作・映画「無明の橋」公開記念「布橋灌頂会」パネル展開催中	2
令和7年度立山博物館友の会バスツアー	
今年度は、紅葉の新潟県妙高市・上越市へ	2
学芸課発 立博雑学 第19回 田中角栄も絶賛！立山黒部アルペンルートと田中角栄	3
立山の現在(いま)を封じ込めて—常設展示というタイムカプセル	3
国重要文化財・旧嶋家住宅の耐震補強・保存修理工事が終了	4
まんだらナイトウォークを終えて	4
もみじを愛でる会・ちょっと昔の映像上映会の中止に添えて	4
博学連携 博物館で「中堅教諭資質向上研修」の2日間！	4
編集後記	4



令和7年度 後期特別企画展

「英國から立山へ～『日本旅行案内』にみる立山～」を終えて



今回の企画展では、明治初期に立山を訪れたイギリス人の足跡を辿り、当時の外国人向けのガイドブックである『日本旅行案内』に立山はどのように記されたのかを紹介しました。

私の専門分野が世界史のため、1章では出会いから19世紀中頃までの日英関係史についてパネルと資料で紹介しました。特に19世紀後半の国際情勢を描いた「滑稽欧亜外交地図」を展示できたことは今企画展一番の思い出となりました。第2章では立山に訪れたイギリス人の足跡をパネルと資料で紹介しました。3章では、『日本旅行案内』の内容を現代のガイドブック風にしてパネルで紹介しました。旅の準備について紹介したパ

ネルを興味深く読み込むお客様の姿を見て、準備した甲斐があったと心から思いました。

この企画展を観覧いただいた皆様が、世界と日本、そして立山のつながりを知る楽しみを味わい、豊かな時間を過ごしていただけましたなら、大変ありがとうございます。

最後に、調査や資料出品等、様々な形でご協力いただきました皆様に、あらためて厚くお礼申し上げます。（観覧者数：1,847人）
（河野史明）



坂本監督最新作・映画「無明の橋」
公開記念

「布橋灌頂会」パネル展 開催中



江戸時代、地獄に墮ちるとされた女性たちを救う法会として、芦嶺寺集落で閻魔堂・布橋・媼堂を舞台に行われた「布橋灌頂会」は、明治期に廃止され、現在3年に1度の現代的イベントとして復元されています。

この現代的な布橋灌頂会をモチーフに描かれた、坂本欣弘監督の最新作「無明の橋」の公開を記念して、布橋灌頂会を紹介するパネル展を開催中です。また、パネル展にあわせて、「立山曼荼羅」も布橋灌頂会に関連した来迎寺本（複製、原資料は来迎寺蔵）と日光坊A本（個人蔵）を展示しています。

今年の9月27日（日）には「布橋灌頂会」が開催される予定ですので、事前学習にもぜひ活用してください。

- ◆会期 令和7年10月28日（火）～令和8年3月1日（日）
- ◆場所 富山県[立山博物館]展示館2階 常設展示室
- ◆観覧料 一般300円（常設展示観覧料）、大学生以下70歳以上は無料
- ◆開館時間 午前9時30分～午後5時（入館は4時30分まで）
- ◆休館日 月曜日（祝日を除く）、祝日の翌日、年末年始、12月28日（日）
※天候により、臨時休館する場合あり。



令和7年度 立山博物館友の会バスツアー

今年度は、紅葉の新潟県妙高市・上越市へ



今年度は、「三禅定の道—紅葉の妙高・上越を訪ねて—」と題し、11月12日（水）に三禅定のルート上にある、妙高市の関川関所「道の歴史館」と関山神社及び旧関山宝蔵院庭園、上越市の上越市立歴史博物館へ訪れました。旧関山宝蔵院庭園では「妙高山の眺望も庭園の一部」とあったため、眺められるのか？と心配していたのですが、それまで山頂にかぶっていた雲が到着したときにはすっきりと晴れており、宝蔵院の院主の気持ちをちょっぴり感じることができました。また、今回一番の目的であった関山神社へ参拝したことで、妙高山や妙高山信仰についても現地で学ぶことができたと思います。

今回も朝早くの出発だったにも関わらず、立山博物館友の会の見角会長をはじめ、山下副会長、友の会理事・会員、ボランティア会員など、総勢34名での旅となりました。来年度もまた、楽しく学べるツアーを企画したいと思います。
（細木ひとみ）



旧関山宝蔵院庭園にて



学芸課発

立博 雜学

学芸課によるリレー形式のコラムです。立山や立博についての蘊蓄や魅力を、雑学としてお伝えします。

第19回 田中角栄も絶賛！ 立山黒部アルペンルートと田中角栄

田中角栄といえば、歴代の内閣総理大臣の中でも知名度が高い1人ですが、立山黒部アルペンルートにまつわる逸話が、『文藝春秋 平成26年8月号』の記事で紹介されています。

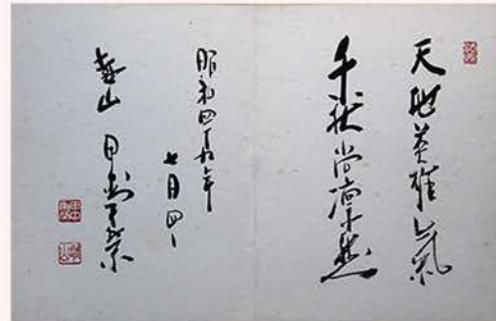
総理在任中の昭和49（1974）年7月7日に投開票が行われた第10回参議院議員通常選挙で、角栄は大胆な作戦を実行します。双発の大型ヘリコプター、川崎バートルKV-107を2機借上げ、茨城県を除く46都道府県、147か所で遊説したのです。当時は新幹線が東京から岡山まで、高速道路が東名・名神のみ全線開通という時代で、その威力は絶大です。しかし、雨や霧で視界が悪いと飛べないという弱点がありました。

7月3日の長野から富山への移動が雨で飛べなくなりました。

前夜、宿泊先の旅館で遊説班が移動方法を考えあぐねるなか、角栄が「立山の下にトンネルがあるはずだ」と切り出します。角栄は3年前に佐伯宗義から立山黒部アルペンルート全線開通の報告を官邸で受けており、宗義に電話をかけ、翌朝、大町トンネルと大観峰から桂台の区間を黒塗りの車列で走り抜けたのです。当時の富山新聞の記事によると、その途中、立山ロープウェイからの眺めを見ながら「「これが列島改造だ。すばらしいながめだ！」と連発」したといいます。車列は芦嶺寺の集落もさっそうと駆け抜けたことでしょう。

そして、午後3時過ぎから富山縣護國神社で1万2千人の聴衆を前に演説を行ったのを皮切りに、予定していた県内の遊説全日程をこなしました。そして翌朝、同神社を正式参拝し、芳名帳に「天地英雄氣 千秋尚凜然」（雄大な心は永遠無限に変わりなく凜々しく勇ましい）としたためでした。

（鈴木博喬）



富山縣護國神社に保管されている芳名帳

いま 立山の現在を封じ込めて — 常設展示というタイムカプセル

展示館3階の刷新にあたり、現在の立山一帯の自然環境をより正確にお伝えするため、生物相の調査を行いました。立山では古くから独特の山岳信仰文化が育まれてきましたが、その背景には、豊かな自然の存在があります。今回の調査では、展示内容の見直しに加え、実際に立山を歩いて得た現地の姿を展示に反映させることを目指しました。ぜひ展示をご覧いただく際には、こうした背景を感じながら観覧してみてください。ここでは、調査から見えてきたことの一部をご紹介します。

過去の記録では、オオルリボシヤンマは弥陀ヶ原が富山県内の生息地で最も標高が高い場所とされていました。しかし近年では、室堂周辺でも良好確認され、弥陀ヶ原では減少しているという話も聞かれます。今回の調査でも、弥陀ヶ原ではルリボシヤンマのみが確認され、過去30年間で生息環境に変化が生じている可能性が示されました。

トンボ類は生息環境の空間を幅広く利用し、種によってその範囲も大きく変化するため、湿地環境がわかる指標として用いられることがあります。特に大型のトンボは環境変化に比較的適応しやすい一方、その数の変動は湿地環境の生態系全体にも影響を及ぼすと考えられます。こうした点からも、立山の継続した調査の重要性が実感されました。

今回の結果や近年の調査も踏まえ、生息が確認されたルリボシヤンマのヤゴも展示に加えることにしました。30年後、展示をご覧になる方々が「当時の弥陀ヶ原はどのような環境だったのか」を思い描けるよう、タイムカプセルのような感覚で受け取っていただければ幸いです。

（上利理峰）



国重要文化財・旧嶋家住宅の 耐震補強・保存修理工事が終了

立山博物館の施設の1つで、国的重要文化財である旧嶋家住宅は、かつて富山県から岐阜県の高山市に通じる飛驒街道沿いにある細入村片掛の街道に面して建てられていた住宅です。近年、屋根板の腐食による雨漏りなど被害が見られるようになり、令和6年9月から耐震補強するとともに、屋根全面の葺替えや建具類、腰板皮張、土壁などの補修工事を行っていましたが、昨年8月に無事終了しました。



立山信仰とは直接関わりませんが、立山博物館に移築されたこの貴重な文化財を広く知ってもらおうと、10月18日(土)には工事監理者であった、職藝学院の上野幸夫先生にお願いし、工事終了祝いの解説会も実施しました(30名参加)。

これからも旧嶋家住宅の魅力も伝えるイベントを開催していきたいと思います。
(細木ひとみ)

まんだらナイトウォークを終えて

9月6日(土)・7日(日)の両日「まんだらナイトウォーク」をまんだら遊苑にて開催しました。昨年は大雨のため1日しか開催できませんでしたが今年は2日間共無事開催しました。地界は赤く照らしスマートも使いより恐ろしさを増す演出、陽の道ではキャンドルなどによる回廊、そして天界は空色に染めてしゃぼん玉を飛ばし天上の世界をイメージしました。両日とも多数ご来苑を頂きありがとうございました。

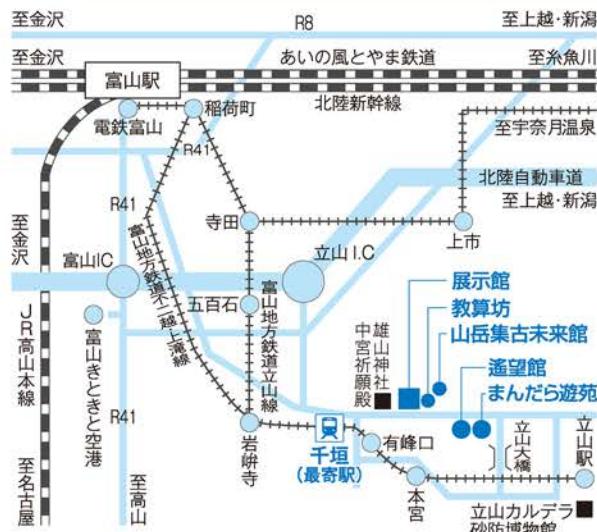


もみじを愛でる会・ ちょっと昔の映像上映会の中止に添えて

11月1日(土)から3日(月・祝)の3連休に合わせ、もみじを愛でる会を教算坊にて開催する予定でしたが、前日に近隣でクマの目撃情報があったため、残念ながら3連休中のイベントは中止とさせていただきました。

昨年は立山町でもクマによる人身被害が発生し、またまんだら遊苑・遙望館なども臨時休館・休館をしないといけない状態下ということもあり、来館者の安全のため苦渋の決断をしました。今年は今回のリベンジで教算坊での企画を行いたいと思いますので、楽しみにしてください。
(毛利成宏)

案内図



博学 連携

博物館で 「中堅教諭資質向上研修」の2日間！

毎年、県教育委員会から「ちょっと特別な研修を」とお願いされ、当館では高校の中堅教諭をお迎えしています。昨年は、2名の先生が参加されました。10月9日(木)～10日(金)の2日間、博物館がまるで「先生のための特別教室」に変身しました！

1日目:博物館の裏側をのぞいてみる

学芸課長が案内する展示室ツアーからスタート。立山の自然や信仰、文化が詰まった展示を、先生の目線で解説。「これは生徒にどう伝えよう?」と思いながらメモを取る姿が印象的でした。

そのあとは、虫から展示を守るIPMって何?ボランティアさんはどんなふうに活躍している?…というテーマで、学芸員たちが次々と講義。「へえ~!」という声があちこちから。(実は、博物館って裏側も面白いのです!)

2日目:ついに先生が「解説者」に！

最終日は実践タイム。話題の「立山曼茶羅」コーナーで、先生が解説に挑戦!「熊を追いかけ、洞窟の中へ…」と、ちょっと緊張しながらも熱が入ります。

そして締めくくりは館長室での座談会。館長や学芸員たちと一緒に、「学校と博物館、もっと連携できない?」「地域の学びをどう豊かにする?」、そんな未来の話で盛り上がりました。

2日間の研修を終えた先生方は、「博物館って、ただ見るだけじゃない。教える場としても、つながる場としても、可能性がいっぱいだ!」と、輝いた目で仰っていました。当館も、先生方の「次の授業」に少しでも役立てたら嬉しいと思っています。
(森山義和)



編集後記

令和7年度の99%の展示&イベントが無事終了しました。毎年4月～10月は「駆け抜ける」という表現がぴたりなくらい、とても忙しい時期なのですが、10月末にまんだら遊苑天界近くで目撃されたり、集落内を横断したりと、最後の最後でクマさんに振り回された1年になりました…。立山開山縁起には、阿弥陀如来様の化身がクマであったと登場しますので、今年も何とか共存していきたいと思います。
(H)

●最寄り駅

富山地方鉄道立山線千垣駅

下車徒歩約30分(約2km)

※日曜・祝日を除き町営バス運行

「雄山神社前」下車すぐ

●自家用車で

JR富山駅から 約45分

立山駅(千寿ヶ原)から 約15分

富山インターチェンジから 約35分

立山インターチェンジから 約30分

立山博物館のHPは
こちらから



人間と自然のかかわり方を学ぶ

富山県[立山博物館]

〒930-1406 富山県中新川郡立山町芦嶺寺93-1
TEL 076-481-1216 FAX 076-481-1144

